令和2(2020)年「正覚寺報」4月号

◆ご　案　内

四月度は、当初予定しておりました下記ご法座は、新型コロナウイルス対策のために、お休みすることに致します。

記

① 仏教壮年会お聴聞の会4月5日(日)20時

② 仏教婦人会例会　　同　　上

◆はじめに

新型コロナウイルスを広がらせないように、三密(密閉、密接、密集)を避けようと叫ばれています。密接は、会話についてのお話です。

ところが、自由の効かない仕事で都市部に出かけますと、「誰それは引いていますが、貴方に移さないように注意させます。」と云われます。

三要件は満たさないにしても、これは危ないなあと思わないではおれません。

では当院ではどうしてきたか、二月末の永代経は基礎疾患を抱えていらっしゃる御講師にはご出講をご遠慮しました。四月のお聴聞の会ではお若いお方ですが、県外から夜の会合にお迎えする関係上、主催者側の配慮が求められます。とうとう、ご遠慮の決断を致しました。ご講師は残念がっていらっしゃいましたが、又の機会を楽しみにすることと致しました。

東京都で四十人を越す感染者が発生したのはその明くる日でした。不要不急の外出、特に夜の会合は避けるように、と云われるようになりました。ここは、たとえ田舎のお寺であっても配慮の姿勢を示さなくてはなりません。四月度の「お聴聞会」「例会」はその意味で開催を控えることに致しました。お許し下さい。

◆新たな体験と発見に導かれて

でも、当院にはご法座活動をネット上でご紹介する機能があります。ネット上で検索しますと、当院情報がよくヒットします。これは驚きです。因みに「**お念仏の本質は、如来様から回向された法の次元の働きに遇わせて戴くことですよ**」という重要なコンセプトを検索しようとしますと、単に「法の次元」だけでヒットするのです。

そんな中で、五年前の、滋賀組仏婦御法話案内に接して眼が開かれます。当日の御法話は、浄土真宗のみ教えのエッセンスを当院で誕生した仏教讃歌を手掛かりに、まず、第一部では、ご本尊、阿弥陀如来を仰がして戴くことから入り、実はご本尊が衆生(私)をお救い下さるのは、「南無阿弥陀佛」の御名(みな＝お名号)の働きによること。そのお姿に遇(あ)わしめんがために「さあ称えてごらん」との方便法身のお勧めに出遇っていること。お勧めの通りに、「南無阿弥陀佛」と称えさせて戴くと、その途端、「南無阿弥陀佛」と聞こえて下さること、聞こえて下さった「南無阿弥陀佛」こそは、たった今し方お浄土を発して、わが両の耳を揺るがせ、わが胸底に響いて下さった阿弥陀如来そのお方に他ならなかったこと、初めは何のことか分からなかった私にもやがてそのときがやってきて、ああ、これこそ、「ワレヲタノメ」と喚(よ)び続けて居て下さった如来様のお喚び声でしたかと喚び覚まされるときがやってくるのであります。

第二部では、実際にそのお心を、仏教讃歌**「ふと仰ぎ見るお姿は」**を歌いつつご一緒に味わわせて戴くことになるのであります。合掌。